

弁護士
田中秀雄

●「愛の不時着」

今年の正月休みに事務局の方から勧められて韓国ドラマ「愛の不時着」を観た。１６話(約２２時間)を数日掛けて一気に観てしまった。年甲斐も無く、評判通りすっかりはまってしまった。恐らくあり得ないストーリーなのだろうが、良く練られた内容と配役で、世界中を魅了したのだと思う。韓国では、北朝鮮との宥和政策をとる文在寅政権に忖度した内容との批判もあるようだが、それよりも、北朝鮮の市井の人々に対する暖かい眼差しは、よそ者としては北朝鮮のカノ将軍様から受ける「怖い国」のイメージを真っ向から覆すものだった。北朝鮮側は激怒して、観たら処罰とのお触れが出ているそうだ。なぜかというと、南と比べての貧しさ、国家ぐるみの盗聴、日常的に起こる長時間の停電等々、そして、人民軍保衛局による拷問など、自国民にも、他国にも公にしたくないのだろう。多くの脱北者に取材を重ね、また、チェジュ島やモンゴルのウランバートルに大がかりなセットを作り再現したピョンヤンや国境非武装地帯などリアルな北朝鮮、そして、愛した人を守り抜く一途な北朝鮮の将校を演じたヒョンビンと我が儘な韓国財閥令嬢が本当の愛を知ることで優しさに目覚めていくのを演じきったソン・イェジンによって、このドラマはこれほど多くの人々を魅了したのだろう。「愛の不時着」ロスに墜ちた矢先、主役の２人がリアルに付き合っているという芸能ニュースが流れた。知りたくなかったような気もするが、お似合いだなとも思う。末永く、お幸せに！



● 韓流ドラマにはまる

私は「冬のソナタ」の時代から長いこと韓流ドラマのファンで、一時は「オールイン」、「天国への階段」など話題の韓流ドラマは殆ど見ていたが、ここ１０年ほどは殆ど見なくなっていた。ところが前記のように「愛の不時着」から再び韓流ドラマにはまってしまい、Netflix にも加入した。いい年をしてラブストーリーに夢中になっている。韓流ドラマはラブストーリーでも日本のドラマとはスケールが違う。「愛の不時着」も現実ではあり得ない話ではあったが、それ以外にも、宇宙から来て韓国で４００年も生きてきた男と韓国のトップ女優との恋（星から来たあなた）とか、王に逆らったため逆賊の汚名を着せられ不滅の生を与えられてしまったため死ぬこともできず９００年も生きてこざるを得なかった将軍と若い女性との恋（トッケビ）とか、詐欺師と人魚との恋（青い海の伝説）とか、漫画の世界の男との漫画家の娘との恋（Wの世界）とかどれも突拍子もない話と分かっていながらつい引き込まれてしまう。韓国のテレビドラマの脚本家は徒弟制度で男の脚本家は育たず多くが女性の脚本家だそうだが、丁寧な描写と緻密なストーリー展開、そして俳優陣の圧倒的な演技力で視聴者を引き込む。セットやロケなどお金の掛け方も日本のドラマとは比べものにならない。韓流ドラマの沼から当分抜け出せそうにない。

● ワクチンへの期待

この頃はどこへ行っても「ワクチンは打ちましたか」が挨拶代わりだ。私もようやく２回目を打ち終わった。東京で新規感染者が１０００人を超え、菅内閣は７月１２日から８月２２日まで４２日間の４回目の緊急事態宣言の発出を決め、オリンピックは一都３県の無観客開催と決まった。こんな状態でオリンピックをやる意味は全くないと思うが、ここまでくれば中止の選択肢は無いのだろう。こんな失政続きの内閣は初めてだ。

私は血圧が高く基礎疾患があるので、コロナにかかったら助からないと思っていたのでワクチンには期待していた。新型コロナの押さえ込みには早くワクチンを投与し、日本人の６割か７割くらいの人にワクチンが投与されないと駄目だと思っている。でも政府はまた今になってワクチンが不足していると言い始めているので今の調子だと日本人の６割か７割の投与は来年中頃かもしれない。伊集院静が「大人の流儀１０」の中で「人類の歴史の中で感染症が人間に打ち勝った例はない。心配はいらない。信じることだ。」と書いている。だからもう一度言う。いつか夜は明けるし、やまない雨はない。

●マスク

マスクが嫌いだ。息苦しくなるのですぐ顎の辺まで下げたくなる。これから夏に向かうので地獄だ。裁判でマスクをしながら尋問をしていて途中で息苦しくなって顎の辺に下ろして尋問していたら裁判官から「代理人、マスクをしてください」と何回も注意されたり、相手方の側でマスクを顎の辺に下ろして尋問していたら「先生、マスクをして下さい」と注意されたことがあった。マスクを拒否して飛行機から降ろされた男や大学入試会場で鼻を出してマスクをしていて何度注意されても止めなかったため会場から出され、その後も退去しなかったため不退去罪で逮捕された男がいたが、そこまでやる気はないが気持は分からないでもない。冬は防寒にもなったので我慢できたが、暖かくなってくると実に邪魔だ。朝日放送の「おはよう朝日です」という番組で、以前コメンテーターをやっていた阪大の森井医師がコロナの完全な収束は見通せないのでマスクをこれからもつけていかざるを得ないと言っていたが、コロナ後はマスクをするのが普通で素顔をさらすのが例外となり、服装や流行もマスクが常態となり、会食も食べるときだけマスクを外すように変わっていくのだろうか。考えるだけでも暗くなる。



● 痛いの痛いの飛んでいけ

時々孫に会う。転んだりすると、いつも「痛いの痛いの飛んでいけ」と言うと泣き止む。私も痛いのや気持の悪いのが嫌いな弱虫であり、誰かに「痛いの痛いの飛んでいけ」と言われたい方だ。お恥ずかしい話をする。私は、歯科医院には２ヶ月に１回は行くが、治療は滅多になく歯科衛生士さんに歯石を取ってもらうためだ。この歯科医院には平成５年くらいから２７年くらい行っているが、担当の衛生士さんはずっと同じ方だ。私は嘔吐症でノドの奥に器具が入ってくるだけで嘔吐しそうになる。衛生士さんが下手だと無理なので、この衛生士さんが系列の医院に移ったら私もストーカーのようにくっついて行く覚悟である。嘔吐症なので今まで一度も胃カメラで胃部透視をしたことがない。胃カメラを飲むくらいなら死んだ方がましだし、どうしても必要なら全身麻酔でやってもらうつもりだ。正月の餅も海苔を巻いた磯辺焼きは食べるが、雑煮に入れる餅は食べられない。無理して食べるとノドに詰まって死んでしまうような気がするからである。昔から私の死因は物をノドに詰めることではないかと思っていて、そうなったら嫌だから気をつけてはいるが、いつも不安である。